

グループホーム 添寿の里

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念 「 地域の人達と共に馴染みのある生活を送り、笑顔でみんな一緒に、あんきにのんきに自分らしい生活を送りましょう 」をテーマに暮らしづくりに努めている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念を大きく玄関先に掲げ、毎朝、朝礼時などで理念を共有し、その人らしい生活を大切に、スタッフと共に実践に活かしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		玄関先に大きく掲げている為、家族や来訪者にもすぐに目につきやすく、その都度、説明を行い理解してもらっている。 家族や親類の方、友達、訪問者に、玄関に入ると目立つよう字を大きくし、見てホッとするイラストを貼りすぐに目に入るよう工夫している。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣施設や居宅サービス利用者、当ホームの利用者の友達や知り合いなどを通じ、よく立ち寄ってもらえるような環境作りに努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		町役場と連携し町報を頂いており、地域での行事にはできる限り参加し交流を図っている。 地域主催の行事（老人会、神幸祭、岩石城祭り、町の清掃活動）等には進んで参加に取り組み、地域の中学生の体験学習や地域の保育園の慰問などもどんどん取り入れながら、交流を図っている。

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者の友人宅への訪問に送迎したり、地域の高齢者の訪問の依頼があれば、すぐに送迎の支援は行っているが、他に何か出きる事はないか？を話し合い取り組んでいる。		地域の老人会の人達や近隣の高齢者の訪問を歓迎し、いつでも利用者との交流を図れる様支援している。まだ他に出来る事の支援を、今後も取り組んで行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を通じて職員と話し合い、評価事項で改善すべき内容も明確にし検討した上で、改善に取り組んでいる。		外部評価には、スタッフ全員で関わりを持ち、評価の話し合いも意義を共有し改善に努め、質を高めて行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各月(偶数月)で行い行事報告や、サービス状況、研修報告などを報告し、その月の議題について話し合いを行い、よりよいサービスを提供出来る様にしている。		運営推進会議の参加者を定期会員の他に、議題により社会福祉協議会や包括支援センターの職員、地域の民生委員に会議に参加して頂き、話し合いを行っている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の職員とはよく行き来しており、町報の配布や行事やイベント参加の書類等で、よく訪問して下さっており、情報の提供も定期的に行っている。		当ホームの課題や書類の件で出向く事も多々あり、町の職員ともコミュニケーションが図れサービス向上に努めている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度を活用している利用者はいないが、資料を取り寄せ、施設内研修などで、職員に周知しながら学び、家族利用者に制度の必要性や相談質問等があれば、窓口等で説明を行っている。		家族会で運営推進会議を一緒に行い、会議の議題に一部取り入れ、資料を配布し家族利用者に必要性と制度の説明を行い理解に努め、制度の必要時は相談窓口での支援を行っている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より虐待防止に努め、利用者の身体の変化を見逃さず、変化見られた場合は職員全員で原因を究明し、話し合いを徹底して行っている。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の前後からしっかり説明を行い、家族利用者の不安や心配事、疑問に思うことなどを尋ねており、その場で分からない事などは、電話や訪問時に気軽に相談しやすいように努めている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員全員に日頃より会話の中で利用者の意見や思っている事を聞き、日々申し送りや会議等で話し合いを行っている。また利用者、家族共に意見を出しやすいよう、意見箱の設置もしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日頃の生活状況や健康状態は、面会時に必ず報告し、遠方の家族や急を要する場合は電話にて対応している。金銭管理については、月々台帳に目を通してもらい確認印をもらっている。		季刊誌の発行や利用者本人が書いた暑中見舞い、年賀状などを出している。また、家族会(年2回)にて利用者状況、職員の異動等の状況を伝え、健康状態についても係りつけ医より家族へ報告するようにしている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に口頭や意見箱にて意見を聞くようにし、意見等があった場合、申し送りや会議等で報告し運営に反映させている。		利用者家族の不満や苦情の内容は、家族会や運営推進会議でも取り上げ、窓口を当ホームに限らず町役場や広域連合、国保連合会に設置し、気軽に言いやすいようにしている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフだけのミーティングを開き話し合いを設け、自由に意見を出してもらい、出た意見について管理者を含め全員で話し合うようにしている。		ミーティング以外でも機会があればいつでも意見や提案を聞くようにしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月の行事等も考慮した上で職員配置をし、必要時や業務上の都合ややむを得ない事情の場合、利用者の不自由のないよう勤務交代や超勤等で対応し、職員にも理解を得ている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の必要があれば段階的に行い、利用者にとっての変化を最小限に抑え、変化によるダメージの重大性を理解し配慮を怠らないようにしている。また、退職者が極力でないよう、管理者、職員とのコミュニケーションが図れる様に努めている。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>最初から採用対象外とすることはなく、本人の意欲等で判断している。働く職員はそれぞれの能力を発揮し、やりがいを持って勤務出来るよう配慮している。</p>		<p>年齢に関しては定年65歳としていますが、その人の能力や資格、またやる気などを考慮し一定期間の契約をもとに採用している。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>職員会議、ミーティング、申し送り等で利用者の人権を尊重する事を常に話し合い、取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人一人、人間として質の向上を考え、職員育成を念頭に置いている。また、研修に関しても高齢者介護に必要な基礎実技の研修に参加し、日頃のケアに活かすようにしている。</p>		<p>管理者、職員にその能力にあった研修、介護に関するさまざまな研修に参加し、内部勉強会にて実践に活かし、質の向上を図っている。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者の必要性を認識し施設訪問、見学、電話等の情報交換や相談、お互いの職員親睦会などを行い、交流を持ち質の向上を図っている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日々、職員一人一人の健康状態を見極め、個別に悩みを聞いたり、食事会など行い意見交換しながらストレスの軽減を図っている。</p>		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力、実績、勤務状況を運営者に報告し、個人のもつ能力を認め、最大限に活かせるように声がけし励ましながら、自信をもって業務に励めるように取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期には、特に信頼関係作りに気を配り、コミュニケーションを図りながら、不安のないように配慮し、本人の訴えなどをよく傾聴し、受容するように努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用にあたり家族に対し、困っている事、不安な事、またどんな生活を望んでいるか？など、何でも相談を受けたり、直接言えないことは、手紙や電話などで受けるようにし、信頼してもらえるようにしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、よく説明を行った後、他の資源等の説明を行い、本人、家族にとって一番よい方法についての話し合いを行い、支援に取り組んでいる。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が生活する上で、馴染みの物の重要性を理解して頂き、家族より情報を集め、体験入居などを通して職員や他の入居者とコミュニケーションを図りながら、徐々に馴染んで頂けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者ではなく、家族として考えており、日々の暮らしの中、色々な会話や経験談の中から教えられ、励まし合い、一緒に泣いたり笑ったり、日々を楽しみながら送っている。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族とは積極的に情報交換しながら、共感し励まし合い、また、話し合いを持ち本人を支えていくよう努めている。		御家族とは常にコミュニケーションを図る為、面会時など、情報交換し合い支援していくようにしている。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族が、よりよい関係が築いていけるよう、双方の調整を図り、「ここで良かった」と思ってもらえるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行ったり、懐かしい人の面会や、時には訪問したりと関係が途切れないように支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	談話室や食堂の充実を図り、交流や会話がしやすい空間と家庭的な雰囲気づくりに努め、一つの家族として、支えあえるよう努力している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や契約終了者にはこちらから見舞いに訪問したり、出来る事の支援を行なっている。		サービス利用の終了前に御家族に対しても関係を持続する為、系列施設や他の資源の提供や相談などの支援を行っている。
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞いたり、御家族に尋ねたりしている。又、困難である利用者は日常生活の中で表情やしぐさ等で察したり、受け止める努力をしている。		困難なケースに関わらず、入居時のアセスメントの充実と生活歴の把握を行い、情報の共有を図りながら、本人本位の生活を送ってもらっている。

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや面会時に家族より周りの情報を集め把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	昼夜を徹して、利用者の状態を全職員が把握できるよう申し送りノートの充実などで把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや好きな事、出来る事など、家族の意見も反映し、その人らしい生活が送れるよう、職員との話し合いで介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは期間に応じ、必ず行っているが、途中で変化が生じた場合は、関係者と協議しながら計画の見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別のケース記録、ケアプラン実施表に記入し、日々気づきや工夫等は申し送りノートで、情報の共有が出来る様にしている。その際全職員が目を通したのが分かる様サインで確認している。		利用者の日々の様子や気づきなど、毎月ケアの見直しを職員ミーティングを行い、その内容をリーダー会議で話し合い、検討を行い実践に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	決められた生活を送るのではなく、本人、家族の要望に応じたケアの提供に努め、同法人内の老健、特養施設の協力のもと支援を行っている。		同法人内の売店に散歩がてら買い物に行ったり、慰問があれば見学に出かけたりと連携を図っている。

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の開催行事の参加や資源等を利用し、ボランティアで、民謡の歌教室や地域の保育園の慰問、中学生の体験学習などの受け入れを行っている。		警察署での一日所長(元、高見山)による交通安全に参加した。又、民生委員やボランティアによる訪問や慰問が増え、開けた施設づくりをする事でよりよい生活を支援していきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅介護支援事業所や他のケアマネージャー、支援相談員とは、必要に応じて連絡をうけて、密接な話し合いにより支援している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと定期的に交流をもちながら、予防介護や権利擁護のことについての話し合いの場を持ちながら協働している。		包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂いたり、時々来訪して頂いたり電話連絡などしながら交流を図り連携をとっている。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により、出来るだけ希望に添えるような医療を受けれるよう体制をつくっている。病状の変化や受診結果も本人、家族に十分な説明を行い、同意を得て適切な医療を受けれるよう支援している。		一部の利用者を除き、地域の医師の往診で対応している。病状の変化ある時は本人、家族へ説明を行い同意をへて病院の変更、また往診医師の判断により、変更行い医療との協働を行っている。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の定期受診や認知症進行みられる場合も受診を行い、専門病院と連携を図り医師に相談や診断、治療をうけている。		専門病院が協力病院である為、相談や診断の支援がスムーズに行えるよう、コミュニケーションを図り支援に努めている。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	緊急時の担当看護師や係りつけの病院の医師や看護師にささいな事でも気軽に相談しながら、日々の健康管理、医療の活用に努めている。		緊急時対応看護師が週2回訪問し、利用者とのコミュニケーションを図り、健康管理、病状把握に努めている。

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は病院の関係者(ソーシャルワーカー)と情報交換を常に行い、本人、家族が安心して早期退院が出来るよう支援している。また、そういう場合に備えて協力病院と連携をとっている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状変化により重度化や週末期を迎えた場合、本人、家族と十分話し合い、今後の方針を決める上で三者(家族、医師、管理者)で話し合いを持ち、その結果での方針を全職員で共有している。		これまで入居者、家族の希望により3件のターミナルケアを行い、看取りを行った。その際、主治医、家族の協力を得、職員間で方針、情報を共有しながら、最後までよいケアが出来たと思う。全職員一丸となり、達成できた事を、皆が誇りに思っている。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	週末期に向けた暮らしに関して「出来る事、出来ない事」を職員全員で十分理解しチーム一丸となり支援している。今後も家族や職員の意見を反映しながら次回に備え準備を行っている。		当ホームは三件の(看取り)の実績があり、今後も本人、家族の要望に可能な限り応じ、医師の連携を図りながら週末期に向け穏やかに過ごせる支援に努めていきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えが必要になった際、それに関わる本人、家族、その他の関係者と情報交換や話し合いを進め、安心して住み替えれるよう支援し、本人のダメージを最少限にとどめる様に努めている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いには十分注意し、自尊心、羞恥心を傷つけないよう尊厳ある生活を念頭に置きケアしている。又、個人情報保護に努めプライバシーには十分注意し、守秘義務を職員全員で周知徹底を行っている。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者との会話の中から、本人の思いを自然にだせる形で援助を行い、納得して頂けるようにし、意見も傾聴しながら取り組んでいる。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの理念でもある「その人らしさ」や気づきを大切に援助しながら、生活のリズムをつくり、日々その人のペースに合わせたケアで支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の要望に合わせ、理・美容室に定期的に通っている。又、女性でお化粧される方は毎日されており、出来ない方についても職員が手伝うなど、整容には常に気配るように努めている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日を自由献立の日とし、入居者の意見を取り入れたメニューで、入居者と共に買出しに出かけ、準備や片付け等を一緒に行い食事を楽しんでいる。		利用者の好みや意見を取り入れ、行事を利用しドライブや花見に出かけた際、外食し本人の食べたい物を注文し楽しめるよう援助を行っている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物(お茶、コーヒー、昆布茶、ジュース等)やおやつは市販の物や手作りの物を好みに提供できるようにしている。又、タバコは本人の嗜好に添えるようにしているが、本人が望まない限りは忘れて頂けるようにしている。		買い物を希望する入居者と一緒に出かけ、本人の望むものを購入出来るよう支援している。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人一人の排泄パターンを把握し観察を細かく行い、できる限り、気持ちのよい排泄ができるように努めている。排泄がないときなどは飲み物、適度な運動、腹部マッサージ等で対応している。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に添えるよう、毎日入浴出来るようにしている。また、体調に合わせ、一人一人ゆっくり入浴してもらい、必要に応じて、見守りや介助をし気持ちよく入浴を楽しんで頂いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の動きや体調を観察し一人一人その日の状態に合わせて、安心して休息できるように努めている。その人により出来るだけお昼寝を(一時間程度)促しゆっくり過ごして頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味や楽しみごと、また出来る事などに注目し、カラオケや詩吟、ぬり絵、習字、お経を唱えるなど、思い思いの生活をマイペースに楽しんでいる。また、家事の手伝い、花の手入れ、畑の草取りなど本人に合わせた取り組みを行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度、自己管理のできる方に関しては、お金の所持をし買い物などで使えるよう支援している。		お金の自己管理の難しい利用者には考えなければならない課題であると思う。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や天気の良い日に、その日の体調や状態に合わせて、散歩、花壇、畑の手入れ等、できるだけ戸外に出かけるよう支援している。		施設の行事でも出来るだけ、園外ドライブの機会を設けて外食したり、季節により、せり、つくしなど摘みに出かけるなど支援している。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事計画の中に、普段行けない所への外出を考えたり、個別で家族の協力を得て温泉に行ったり、馴染みの友人宅の訪問等を行い支援している。		行事で園外ドライブやピクニック等、外出の機会を増やし、積極的に参加して頂ける家族が増えてきた。今後も出来るだけ多くの家族参加に向け取り組んでいきたい。

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、何時でも電話を使用できる様にしている。手紙、葉書については近くのポストへ自ら投函できるよう、同行したりやり取り出来るよう支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、気軽に訪問できるよう開放的にしており、来られた際は、お茶やコーヒーなどをお出しし、居心地よく過ごせるよう配慮を行っている。		再度訪問して頂けるよう、帰る際は利用者と共に玄関先まで見送りし、「次回いつでも、訪問をお待ちしています、また本人がとても喜びます。」と声かけを行っている。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束の知識を十分把握できるように努め、拘束に該当する「3ロック」を使っていないか？申し送り時や会議等で話し合い、注意をしながらケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は鍵をかけないようにしている。離園行為を防ぐため、玄関や勝手口、バルコニーへの出入りにチャイムを設置し、入居者の安全確認や所在確認をするよう職員に周知徹底を行っている。また、夜間は防犯のため施錠をしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の行動パターンに合わせ、十分にプライバシーに配慮しながら、所在確認や安全確保に努め職員間の連携を図りながら、取り組んでいる。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の状態に合わせ、保管、管理を行い、談話室や脱衣場等の共同の場でも危険物などの保管、管理は十分配慮している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の命を預かっている事を念頭に置き、日々事故対策に取り組んでいる。又、事故等があった場合報告書を提出し、その都度職員を集め緊急会議を開き、再発防止に取り組んでいる。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	病状急変、転倒事故などあらゆる事を想定して対応に当たってきた。又、消防の講習や他の施設の勉強会に参加しながら、訓練を定期的に行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は必ず行い、内1回は消防署立会いの訓練を行い、又近隣施設の協力体制を築いている。		災害対策については運営推進会議のなかで、消防署員に参加して頂き検討している。また、災害時緊急連絡網を作成し、地域住民も含めた協力体制を確立していきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時にリスクに対する説明を行っており、面会時に来られた時に話し合いを通じ、抑圧感のない暮らしの提供に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも体調の変化等があった場合はバイタル測定や主治医に連絡し、職員間で情報が共有できるよう朝礼、終礼時に申し送りを行うと共に、情報を数日間流し、公休者にも伝わるように努めている。		日頃の体調を把握するために、医療連携体制の看護師が週2回訪問しており、職員と医師との連携を図っている。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の目的や副作用等を理解できるよう、利用者お薬帳の薬状説明等で確認している。また、昼夜の症状の変化を記録し、職員全員確認しあっている。		入居者一人一人服薬状態を把握しており、服薬の管理と介助を行っている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因を話し合うと共に、毎日ラジオ体操や園内歩行にて運動を促し、飲食物も牛乳や繊維がある物で対応し、スムーズな排便ができるように努めている。又、腹部マッサージ等も取り入れている。		

グループホーム 添寿の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者全員に毎食後の歯磨きを促し、薬用口臭剤で口臭予防しながら口腔ケアに力を入れ、自分で出来ない方については、一部介助にて口腔内の清潔に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の状態、習慣に応じた支援を行うと共に、必要時には食事回数を増やしたり、代替品で対応している。また、食事、水分量の摂取量を記録に残しながら、状態を把握できる様努めている。		食事の摂取で栄養が採れてない入居者については、医師の指示によりエンシュア(栄養剤)で補い、水分等もポカリスエット、ゼリー等で対応している。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、職員に周知徹底を図っている。また、感染予防にも力を入れ、それぞれ感染の研修にも参加し手指洗浄はもちろんのこと、外部から持ち込まないように、面会者や家族にも体調の悪い方にはマスク着用等で協力を促がしている。		感染症予防には特に力を入れており、毎日の手洗い、うがいの励行を徹底し行っている(インフルエンザ、ノロウイルス等の対策を強化している)。うがい時はイソジン、強酸性水を使用。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は業者が毎朝一日分の材料を配達してくれている。又、毎日調理する際、食材はすべて電解水を通し、食中毒予防を行っている。食器や調理器具は食器乾燥機にて熱消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	気楽に訪問して頂けるよう、玄関周りに花や植木等で季節感のある雰囲気を作り、御家族や友人などと園外で一息つけるよう、ガーデンテーブルやイス等を置き出入りしやすい工夫をしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間では、ソファーやいすの設置でくつろぎ、利用者みんなで作成した貼り絵や行事の写真やそれぞれの作品の掲示、また、玄関フロアには、季節に応じて四季折々の飾り付けで入居者の目を楽しませる工夫をし、居心地の良い空間作りを行っている。		

グループホーム 添寿の里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファーやテーブル、新聞や雑誌を置く事で、本人の時間を思い思いにゆったり過ごせる様配慮を行い、談話室では気の合うもの同士おしゃべりなどされ過ごされている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、御家族に協力して頂き、馴染みのタンスや置物等を持ち込んでもらう事により、本人が安心して過ごせるよう配慮をおこない、全居室に壁掛けボードをかけ、本人の思い通りに活用していただいている。		本人の居室と一目見てわかるよう、居室入り口に表札をかけ、御家族同意により写真の掲示もしている。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設内の臭いには十分気を配り、毎日2～3回空気の入れ替えや消臭剤の設置で対応している。温度調節は入居者主体で考え、こまめに調整を図っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には段差はなく、通路等に手摺りを設置している。移動するところには物を置かないように工夫している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの理解力を把握し、その人の能力に応じて、出来ることの支援を行い、自立した生活が送れるように日々努力している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物のサイドにベランダを設置し、日光浴や外気浴をしたり玄関外や庭にイスやテーブルの設置をし施設周りに花を植える事で、外でお茶を飲んだり、バーベキューを行なうなど、楽しく過ごせるように配慮している。		

グループホーム 添寿の里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 添寿の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)